

念信仰等々に就いて、なほ
ゆつくり承つて、若い人々
に紹介したいものであると
考へて居つたのであつた。

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を圖り、總體和進努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を表彰し、且之を奨励す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者の聯絡を許り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナリ
ルベシ

電光石火！一氣呵成！

村議候補の推薦！！

五月十五日發行號外再録

大内民惠

政黨華やかな頃、各種選挙の腐敗墮落、其極に達した時代、予は決然起つて、其肅正改革を絶叫し、單身其運動を開始したのは、實に昭和六年二月一日發行、本紙第七號からであつた。爾來十有二年の間、終始一貫、本紙上に於て、これらに關する、二十有餘篇の論議を掲載したるとともに、政見聽聞會の創催、本縣選舉肅正委員會委員としての出馬等々によつて、其理想實現に精進し來つた事は、世間周知のこと、思はれる而して建國以來未曾有の時局に、當面するに及んで、遅滞をなから、漸くこれが曙光を見るに至つたことを思ふ時に、眞に感慨無量、

深く我胸を打たるゝと同時に、かくてこそと快哉を叫ばざるを得ない思ひにひたるのである。
さて老人の繰言は、これくらゐにして、來る五月二十一日日本村に行はれる、村會議員の選挙に當面して、予が年來の念願の一端が實現され、國策に順應して、「出ていたゞきたい人」に出馬していただく「推薦制」を採用せられたことは、眞に喜ぶべき現象である。
これ本社に於て、其経過及び村内一般選挙に關する情勢を、報道する號外を發行して、全村民各位に之を贈呈すること、した所以である。

去る五月八日、村常會例會席上、沼田會長から、村議選舉は推薦制によるべきか、將た自推制によるべきかの諮問あり、滿場一致推薦採用に決し、次には其候補者銓衡は、候補者を銓衡する委員を擧ぐることを妥當なりとし、其銓衡委員は、會長から各界を代表する、十五名の銓衡委員を指名し、それによつて同じく各界を代表する適格者を擧げて、銓衡委員を依頼し、それによつて定員三十名の候補者銓衡推薦しやうといふことに、其議がまとまり先づ會長より

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 田口 淳三 | 草野 泰一 |
| 吉田 安晴 | 渡邊 忠義 |
| 直井 博 | 山崎庫太郎 |
| 野田辰次郎 | 廣木春之丞 |
| 仲繪 藤一 | 山下喜代治 |
| 牛久信次郎 | 大内民惠 |
| 小松 多嘉 | (順序不同) |
| 柿沼新五郎 | (順序不同) |
| の十五名が銓衡委員に擧げられ、以上の人が別室に於て、協議の結果 | |
| 濱崎善三郎 | 渡邊 忠義 |
| 大橋 貞勝 | 田邊 實 |
| 日野 定利 | 藁谷豊之助 |
| 山崎庫太郎 | 四家 又一 |
| 藁谷 政二 | 田口 淳三 |
| 直井 博 | 久野 常弘 |
| 小松 定次郎 | 生田 辰次郎 |
| 宮下 秀貫 | 野田 雅一 |
| 大越久五郎 | 草野 雅一 |

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり

- | | |
|--|--------|
| 草野 千雄 | 山下喜代治 |
| 久野 藤次郎 | 吉田 安晴 |
| 金澤 慶一 | 大内 民惠 |
| (順序不同) | |
| の二十六名が其委員に擧げられ、急遽同日午後六時を期して、警防團事務所に會合すべく召集急報が發せられ、愈々其顔が揃つて瓜生警察部長臨席の下に開議したのは、午後八時であつた開議一番、山崎委員(庫太郎)より、座長として、縣大政翼賛會顧問大内民惠を擧ぐることを提唱、一同賛意を表したので、予は敢て其席をけがし、先づ一同神明に契つて全員が全責任を負ふこと、協議の内容は極秘に附することの二項を宣誓し、誠心誠意、各般にわたつて検討し、慎重審議し、其結果、滿場一致、推薦したる候補者は、實に | |
| 庄司平三郎 | 金澤 爲喜 |
| 若松 利重 | 佐藤久太郎 |
| 櫻村 留雄 | 磯貝 信夫 |
| 佐藤 作藏 | 山崎 喜一 |
| 島田 兼吉 | 沼田 敬助 |
| 加藤木誠二郎 | 山崎 佐市郎 |
| 増子 幸榮 | 蘭部 末造 |
| 鈴木 喜政 | 野木 力 |
| 松本 大 | 草野 庄太郎 |
| 伊藤仙七郎 | 佐藤 三平 |
| (以上監選) | |
| 田中 義枝 | 武藤 義造 |

次に特に報道しておくことは、定員に限られてあるところから、其選には洩れが、村を思ふ至情から立候補し、本日迄に届け出られた有爲の人々は、
四倉 精一 山口 甚六
阿部 政藏 永井茂次郎
永久保作治 長谷部 榮
大串 米藏 高橋 喜一
遠藤萬四郎 (順序不同)
の九氏である。
最後に、候補者も有権者も、よく選挙の本義を念頭において、飽くまでも清き正しき選挙を行はるゝ様、衷心から祈願して擧筆することとする。
(五月十四日正午稿了)

本紙定価 第一号五錢 二号十錢 三号十五錢 四号二十錢 五号二十五錢 六号三十錢 七号三十五錢 八号四十錢 九号四十五錢 十号五十錢 十一号五十五錢 十二号六十錢 十三号六十五錢 十四号七十錢 十五号七十五錢 十六号八十錢 十七号八十五錢 十八号九十錢 十九号九十五錢 二十号一百錢

村議選舉結果

當選	一八一	志賀 隆壽	八二	山崎佐市郎
	一七〇	伊藤仙七郎	七六	武藤 義造
	一六七	佐藤 作藏	七三	草野庄太郎
	一六七	増子 幸榮	六七	新妻 教藏
	一六五	加藤木 誠一郎	四九	金澤 爲喜
	一六四	都築 源作	四八	△長谷部 榮
	一五九	庄司平三郎	四七	△大串 米藏
	一四六	山崎 喜一	三四	△高橋 喜一
	一四二	荒木 喜政	三四	有権者數 四、七三六
	一四一	鈴木 喜政	四七	投票總數 四、四九三
	一三九	佐藤久太郎	二四三	棄權數 二四三
	一三〇	松本 大	五分一厘	棄權率 五分一厘
	一二七	加美山美雄		
	一二七	佐藤 三平		
	一二五	田中 義枝		
	一一四	野木 力		
	一一四	磯貝 信夫		
	一一三	島田 兼吉		
	一一二	上原 四郎		
	一〇九	志賀 保治		
	一〇八	櫻村 留雄		
	九九	若松 利重		
	九九	齋部 末造		
	九九	△阿部 政藏		
	九五	△四倉 精一		
	九五	△山口 甚六		
	九二	△永久保作次		
	八九	沼田 敬助		
	八九	石田 秀二		
次點	八七	△遠藤萬四郎		

大日本婦人會 支部結成式

四月二十六日午前十時より、内町國民學校に於て、愛婦分會並に國婦分會の發展的解散式を行ひ、午後一時より同所に於て、大日本婦人會結成式を舉行した。來賓には沼田村長、島田兼吉、黒田吉之助、田口淳三氏等三顧問參列、式は國民儀禮に始まり、宣戰の詔勅奉讀後、沼田支部長の挨拶及び宣言、決議あり、次に沼田村長島田黒田兩顧問の祝辭があつて、午後二時半、頗る嚴肅緊張裡に終了。參加者約一千二百名に及び空前の盛況を呈し、力強き發足をなした。

宣言

聖戰五年有半、皇軍の赫々たる武威四海を歴し、大東亞建設の大業まさに世紀の段階に進む。此時我等皇國婦人は、傳統婦道を顯揚し、結末を遂げ、鐵石の一體となり、銃後の大節を完うし、婦人の實を擧げんことを期す。

決議

一、お國のお役に立つ様に立派に子供を育てまはさう
 一、兵隊さんの勞苦を思ひ物資の節約を致しまはさう

大東亞戰爭完遂の爲め國家が要請せる本年度國民貯蓄目標額は左の通りであります

一、我等は飽く迄勝ち抜かなければなりません
 二、萬一之が達成不能なる場合は大東亞戰爭に必要なる戰費は支辨し得られず延いては今次聖戰の遂行上重大なる支障を來すこととなり現下の状態を認識し時局下最重要の貯蓄國策に萬難を排して邁進し銃後國民の任務を果されんことを希望いたします

本年度國民貯蓄目標額 貳百參拾億

同、福島縣 貳億壹千萬圓
 同、内郷村 四百四萬五百圓
 この内、簡易保險新加入額 七千圓

恤兵獻金

陸軍へ 金拾參圓四錢
 海軍へ 川平 佐藤政吉外九名
 御厩元愛婦會會員七拾名

銃奉公會寄附

金拾圓 峯根 横山 傳

金貳拾圓 内町 市川善長

金貳拾圓 白水 大越太司馬
 以上葬儀費節約

銀翼獻金

御厩部落會第二班長川島 徳友氏は、輝かしい戰果を迎へた天長節を祝福し、金五拾圓を山下區長の肝煎で海の荒蕪にと、東朝社を経

高坂婦人常會

健民運動週間の五月七日午前九時より、警防團事務所に開催。田口庶務によつて國民儀禮、結核豫防に關する、皇后陛下の御令旨奉讀、遠藤區長の挨拶、堀校長の健民運動の旨趣、國民貯蓄の強調等有益なる講演、渡邊榮養技手の榮養食の必要、人口増加、育兒法の大要、萬年床の排除、共同炊事の奨励等一時間半に亘る、適切有効なる時局に即應した講話には、會衆九十余名の、傾聴時の移るを知らざる概あつた。

川島氏の特色

御厩川島武雄氏はもと果實販賣を業として居つたのであるが、一年前より時局に鑑み児童間食の一助にも

日本評論社

發行所 東京京橋三丁目
 東京 箭内千代春
 金壹圓 綴坑 杉山 宗光
 金拾圓 白水 大越太司馬
 金百圓 小島 佐藤 三平
 金參圓 姫子 宮下 秀貫

内郷村學事概報

教育制度改革概論

大内民惠著
 (四六版二二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實際とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校舉に迫られず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

味仕り不思議な「打」を申候云々。

内郷村學事概報

高坂國民學校
 ◎平高女。關セツ、住谷良子、伊藤幸子、根本和子。
 ◎新任。片寄武夫、川上忠。大谷幸治、渡邊一男、早川正二。

在籍。四三。修了生。一一三。
 卒業生。三〇。優等賞。六〇。精進賞。六〇。部會賞。一。高橋久一。榮炭所長賞。四。高橋久市。大谷幸治、渡邊一男、早川正二。

文殊に義弟鈴木留次郎氏を追悼した一文の如きは、眞に名文であつて、其教養の

△永久保作次
沼田 敬助
石田 秀二
△遠藤萬四郎

の祝辭があつて、午後二時半、頗る嚴肅緊張裡に終了參加者約一千二百名に及び空前の盛況を呈し、力強き發足をなした。

教育制度改革概論

大内民惠著

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に違あらず。れと未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西直博博士
書を寄せて曰く、多年の御體験下實地ノ御試練ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議ニ打マン申候云々。

發行所 日本評論社
東京京橋三丁目
取次所 内郷村報社

内郷村學事概報

高坂國民學校

◎初等科
在籍、一二三五。修業生、一〇二
三。修了生、二〇八。優等賞、二
〇五。精勵賞、五八六。六ヶ年精
勵賞、三一。部會賞、四。佐々木
政保、高木正、塩原フミ子、川越
トモ。新入生、一八四。

◎高等科
在籍、一〇八。修業生、五五八
修了生、五三〇。優等賞、一九五
精勵賞、四九七。八ヶ年精勵賞、
八四。部會賞、九。皆川守和、榊
原光治、鈴木見玉、高教勇、新妻
勝雄、加藤テヲ、佐藤光枝、篠原
ミヨ子、大津フサエ。新入生、六
二六。

青年學校(高坂)

◎中等學校入學生
◎磐中。阿部英明、秋山茂美、能
澤富美雄、高久進、佐々木政保、
金見章一、佐竹哲也、安部英雄、
高木正、佐々木茂、熊田保次、櫻
井正隆、平山昭夫、山本敏求。
◎平商。駒木根進、田島利郎、下
遠野久夫、小松昭三、生田福美、
森武治、本多忠幸、片寄幹也、柏
倉豊、野澤一男。

在籍、一三三。修業生、九。修了
生、二。精勵生、中川勝、渡邊萬
宮垣今朝吉、森田進、踏橋寛、遠
藤信一、川村清、小林光雄、秋山
忠文、宮澤秀雄、深澤喜代壽、鶴
谷角吉、藤川義正、渡邊義男、志
賀真雄、鈴木一三、松崎榮、渡邊
忠、草野真雄、國井良英、優等生
中川勝、宮垣今朝吉、森田進、宮
澤秀雄、鶴谷角吉、志賀真雄、松
崎榮、渡邊忠。關係職員、一六。

御厩國民學校

◎磐中。皆川守和。
◎東京職前工業。辨野壽雄。
◎磐女。川越トモ、宮川志津子、
小野英子、浦部テヲ、塩原フミ子
大越千代、西川カヅ、磯貝貞子
笹島弘子、佐藤市子、佐藤ヨシ江

在籍、四一七。修業生、三四六。
修了生、七〇。優等賞、九〇。進
歩賞、九。精勵賞、一六五。六ヶ
年精勵賞、二〇。部會賞、一。佐
伯英夫。

鑛業青年學校

◎磐中。吉田久仁夫、鈴木繁泰、
高藤佐平、佐伯英夫、加藤昭夫。
◎平商。野木將、田邊一太郎。
◎平高女。大樂智子。

在籍、一九五六。修業生、一六四
六。修了生、三〇三。優等賞、三
三二。精勵賞、八七四。六ヶ年精
勵賞、五〇。進歩賞、四。科學賞
一。部會賞、猪狩芳秀、伊藤市郎
平子ミサ子、佐々木トミ子、菅野
邦子。教育後援會内町支部長賞。
佐藤隆男、菅原脩次、小泉良子、
大越セイ子、眞壁セイ子。

内町國民學校

◎磐中。猪狩芳秀、山崎保壽、高
藤功、川島和俊、長野武敏、菅原
脩次、菅本重孝、新田裕章、市川
次郎、新妻好一、永久保俊幸、
伊藤市郎、黒田信之。
◎磐女。佐藤美恵子、綾橋キヨ子
小原良子、小口みつ子、大越セイ
子、古澤美津子、花塚玉枝、小林
トシ子、菅野クニ子。
◎平高女。緑川喜美子。
◎高教高女。大原京子、駒木根
マ子、高橋セツ子、入倉ハエ。
◎植田實科。後藤多美子、室伏美
美子。

以上受特訓導。市川英雄、反保
整二、佐々木繁子、大越貞次、吉
田マサキ。
◎教員移動。
◎退職。新倉千代、鈴木ヒサ。
◎轉出。長倉校へ、渡邊チエハ、
若松謹敬校へ、横山武。
◎轉入。長倉校より、野木鏡子。
四倉校より、坂本キク子。
◎新任。市川ハミエ、鈴木真志子

家政女學校

在籍、一一一。本科卒業生、四三
研究科修了生、五。専修科修了生
七。部會賞、生田生子。〇等賞、
本科卒業生、九。研究科修了生、
二。専修科修了生、二。精勵賞、
四九。
◎教員移動。
◎退職。野村安子。
◎新任。富田千枝。

川島氏の特志

御厩川島武雄氏はもと果
實販賣を業として居つたの
であるが、一年前より時局
に鑑み児童間食の一助にも

宮國民學校

在籍、一四三八。修業生、二二六
四。修了生、一七一。優等賞、二
二五。進歩賞、五八。部會賞、四
後藤武志、森田和夫、都築壽小
沼ヨメ子。新入生、二八九。
◎中等學校入學生。
◎磐中。後藤武志、小畑昭一、飯
沼信一、折笠久仁雄、森田和夫、
大瀧國士、小林忠一、大橋章藏、
田仲弘伯。
◎角中。伊藤榮。

◎天理中學。菅野正興。
◎平商。新妻武雄、松本政美、牛
久安敏、荒垣昌生。
◎磐女。田中笑子、横田千子、都
築壽、直井恭子、高橋ユキエ。
以上受特訓導。浦山貞一、庄條八
右工門、反保いつ子、堀本ユイノ
◎教員移動。
◎退職。鈴木全一、佐藤正夫。
◎轉出。箕輪校へ、和田二郎、渡
戸校へ、鈴木勲。西白河白坂校へ
柳沼福子。
◎轉入。好間校より、浦山マツ子
◎新任。榊木信雄、増子靜枝、松
田幸作。

其帳の中心に、予が自治
政に携はれる履歴として、
△明治四十一年六月 初メテ村
會議員ニ選ガラル(三十九歳)
△大正三年六月改選(此間四年)
△同七年六月改選(此間四年)同
十一月六月改選(同上)△同十五
年六月滿期退職。計十八年
△大正二年四月區長就職△同三年
四月重任。
△大正四年十月 郡會議員ニ當選
(四十六歳) △同八年十月改選再
選△同十年郡參事會員ニ就任。
△大正十年紀元節ニ際シ自治功績
之爲表彰テ等々ノ縣知事ヨリ金盃
壹組下賜 郡長ヨリ金盃壹組下賜
△大正十二年郡制廢止同時退職
△昭和九年五月内郷信用組合創
立二十周年紀念祝賀會ニ創立以來
ノ功勞ヲ表彰セラレ置時計壹個
(理事就任中)ヲ受ク △昭和十
二年八月九日 向彌陀堂修理ニ關
シ徵功ヲ認メラシメ眞言宗管長親下
ヨリ表彰セラレ念珠壹連ヲ受ク
△追記(太可馬記)
△白水宮内町河川組合委員ニ選ガ
ラル最期メテ會計ノ職ニアリタリ
△大越中佐銅像建設ニ就キ顯彰會
創設サル、ヤ役員トシテ盡力セリ
△記されてあつた。以て其
人と成り、此世にのこし
た功績の一端を窺知するこ
とが出来、村長級縣議級の
人物であつたのである。

大越治七翁を悼む

大内民恵

回顧すれば十二三年前であつたらうか、白水の願成寺に何かの催ふしがあつた時に、赤土住職の紹介で、初めて言葉をかした、如何にも質樸なお百姓らしく思はれた一老人！それが即ち我大越治七翁であつたのである。それから今日までお寺や阿彌陀堂に、何か事ある毎に、必ず翁と會見する機縁を得、農業のこと、信仰のこと等々に就いて、お互に胸襟を開いて語り合ふを常とし、又楽しみもしたことであつた。又二三年前、翁の邸前を通つた序に、親しくお目にかゝつて歡待をうけ歡談をかしたこともあつたのである。

ところが思ひもかけず、去る二月以來心臓病で静養中であつた翁が、七十三歳を一期として、遠逝せられたといふことを傳聞して、今更ながらしみじみと深き哀悼の念にうたれたのであつた。己み難い所用の爲に他出したので、其御葬儀にせめては翁が名譽職歴でも生前愛讀せられた本紙上に掲載して、其微衷を致さうと、令嗣太司馬君に、其旨を通じたところ、この中にかいてあるから然るべくとて、翁が手記された、昭和六年一月以降同十五年十一月迄の「備忘録」と題する一冊の雜記帳をよけられたのである。これを手にした予は、親しく翁に再會したやうな懐しさを以て、それを拜見し、拜讀したのである。其概観をこゝに紹介して、翁の晩年をしのぶこととする。

開卷第一頁には、毛筆を以て、見事な筆蹟で、何かの雜誌からで、抄録した

これは過去二十余年來、毎月必ずながしつゝの圖書を、記者に供給して貰つた、平市マルト柴田書店の御曹子實君(云)の啓蒙、其幼少時代から、奮闘記録である。健闘ぶり！之を江湖に紹介することば、記者當然の責任であるかのやうに思はれ、それがしかも我啓蒙に於ける、政圖記録たるに於てなやの、感深きものである(記者)

地下の奮闘記録

平市勤勞 報國團長 柴田 實

が身にしみみる。ソレツ起床だ、あきまできびしくさした軍隊調だ。吾等がキチンと身支度して、掘坑の坑前務務派出身の構内に他の勞務員達と一緒に集まつた人々のかたまりからは躍動する生氣が山の端に薄れゆく星に届けばかり漲つてゐる。門柱には「巨道實踐」「總努力」と大書されて居る。一列に並んで事務所に入りカードをヘッドランプをもち、廣場に整列して國民儀禮の後掘坑の人車待合室で入坑を待つた(中略)軌道〇〇米走る(中略)約十五分て人車はまわつた。こゝに吾々の仕事場が待つてゐる。

今日二番方だ、勿論坑内には夜も盡もない。この坑では婦人が大分働いて居る。うら若い娘さんの多いのは驚歎の念さへ湧く。娘さんばかりではない、此處に働く人達はみんな眞面目で素朴だ、自分達が今までも居た炭礦の概念はおよそ逆なものだ。

流を受ける。此處で全部その日の作業を割當てられるのだ。吾々平市の報國隊は今日も支柱夫の助手に命令されて左一坑に入つた。支柱夫は採炭夫の掘り進む後から碎木をはめて行くのだ。落磐の危険のある場所なごまつ先に入つて行つて作業をすゝなかに、重要な役目である。いまのこゝる吾々は、この助手なのだ。

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を圖り、進歩和進歩の實現を期す。
- 三、村内外の各種事業の進歩和進歩の實現を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村と本村出資者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民進歩に當る。

去る五月八日、村常會例會席上、沼田會長から、村議選舉は推薦制によるべきか、將た自推制によるべきか、(順序不同)

草野千雄 山下喜代治
久野藤次郎 吉田 安時
金澤 慶一 大内 民恵

志賀 保治 都築 源作
志賀 隆壽 上原 四郎
加美山美雄 新妻 敬藏
荒木 計 石田 秀二

内郷村報

天法人則 從順ナ

議選舉は推薦制によるべきか、將た自推制によるべきか、(順序不同)

草野千雄 山下喜代治
久野藤次郎 吉田 安時
金澤 慶一 大内 民恵

志賀 保治 都築 源作
志賀 隆壽 上原 四郎
加美山美雄 新妻 敬藏
荒木 計 石田 秀二